7. 成果

フォーラム参加者全体としての満足度は 100%だった。

また、フォーラムの質も参加者全員から期待どおりもしくは、期待以上だったとの回答を得た。米国大統領選直前に行われたものであったため、取り上げたトピックが適当であり課題として取り上げるべきものであったか、との問いに対しても全員がそう思う、もしくはほぼそう思うと回答した。

参加者自身の仕事もしくは研究に役立ったか聞いたところ、88%が役立ったと答え、残りの 12%もそれなりに役立ったとの評価だった。

セッションごとの評価では、気候変動に対応したエネルギー安全保障により関心が高かったことが窺えるが、権威主義対ルール思考の国際秩序についても全員が満足またはある程度満足したと評価した。

概ね良い結果を得ることができたが、特にスピーカーの選定が素晴らしく、ダイバーシティがあって良かったとするコメントは、主催者として目指すべき一面でもあり、大変ありがたく受け止めている。今後の励みにしていきたい。

一方、アンケートでは、午前・午後のセッションに分けて実施したらどうか、との意見もあり、もう少しフロアを巻き込んだ議論・質疑にも時間を割くべきであったと考える。今後はこの点に注意し、時間配分にも気を配っていきたい。

本事業では、対面参加型の聴衆に加え、時間を気にせず聴講できる動画のウェブページ掲載している。加えて、フォーラムの同時配信も行ったが、事前に目指した案内先拡大については対策が不十分であり、今後の課題として残った。後日、報告書や動画をホームページに掲載する旨、日米の著名大学・研究所、日本及び日米経済関係機関、産業界等へも情報拡散すべく、ご案内していきたい。

今回のフォーラム参加者を所属分野別に見ると、ほぼ均等に分かれており、学生、研究者やビジネスパーソン、大学教授の順に多かった。来年度以降は、政策決定に携わる政府関係者にも声がけし、参加者の所属先を多角化して様々なご意見をいただけるように工夫したい。